

# 会 議 録

第 1 9 回定例会

開会 平成 3 1 年 2 月 5 日

## 教育委員会会議録

1 開 会 平成31年2月5日 午後3時30分

2 閉 会 平成31年2月5日 午後4時5分

### 3 教育委員会出席者

教育長	美馬 持仁
委員	辻 貴博
委員	藤本 宗子
委員	小林 信行
委員	河口 雅子
委員	菊池 健次

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	勢井 研
教 育 次 長	青山 佳裕
教 育 次 長	竹内 敏
人権教育課いじめ問題等対策室長	安西 政和
教 育 政 策 課 長	臼杵 一浩
教 育 政 策 課 副 課 長	木下 淳子

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第64号及び協議事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項1 第3回いじめ問題等対策審議会について》

教育長 報告を求める。

人権教育課いじめ問題等対策室長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

辻委員：報告にもあるように、大人が見本になれていないのは本当である。

いじめ問題等対策室長：そのあたりも啓発資料の中で、保護者も一緒になって家庭でルールを作って守りませんか、と呼びかけている。

小林委員：いじめ問題等対策審議会ということで、今回はネットいじめ、問題行動・不登校、携帯電話利用アンケート調査と3つであるが、いじめ問題等というのは他にも話をされてきたのか。

いじめ問題等対策室長：今は虐待のことが大きく取り上げられており、こういう時期に対策審議会を開いた場合は、学校として、教育委員会としてどう取り組むか検証したり、そのような話が出る場合もある。今回の保護者用ネットいじめ・トラブル防止啓発資料も、ネットいじめをメインにおいていたが、夏に行った携帯電話利用アンケート調査で、保護者から長時間利用の悩みが非常に多く出ていた。これはどうしても資料の中に入れていけないだろうということで、いじめとは直接関係ないかもしれないが、ネット依存やゲーム依存を何とかしたいということで資料に入れている。その時々の問題について議論いただいている。

教育長：いじめ問題が深刻化してきた時から、本来、児童生徒の問題行動も含めて広

く扱うということである。

小林委員：今説明にあったように、虐待の問題が最近話題になっているが、根底にはいじめがあって、全ての社会に言えることだと思う。虐待、DV、ハラスメント、全ていじめから派生しているような気がする。子どもたちのいじめ問題を一生懸命に考える上で、ネットいじめだけでなく社会のこと全体を考えていけるようなことができればよいと思う。学校で教えることが、もっと社会に広がっていけばよい。

教育長：この数年、携帯電話について継続して取り組んできて、今回は保護者対象ということだが、また次年度以降も新たに対策審議会で考えていくのか。

いじめ問題等対策室長：今回は次年度の見通しまでは立っていないが、次年度は最初から対策審議会で検討して何かを決めるということは難しい。まず、5名の対策検討部会を開き、そこで御意見をいただいて、それを対策審議会で諮っていこうと考えている。

教育長：特に今問題となっているものから順に、喫緊に必要と思われるものから取り上げていく。

藤本委員：第3回ということで、出席者が15名のうち10名で少ないのではないかと感じた。それと、いじめられた子どもはカウンセラーにつながるが、いじめた子どもに対するフォローも必要だという意見があるが、それに対してどう取り組むのか。また、新聞記事でスマホの利用時間が長くて、全国的に子どもの視力が悪くなったり、斜視になる子どももいるとあり、このようなチラシに「増えている」だけでなく、「こうなります」と具体的に書いた方がよいと思う。

いじめ問題等対策室長：職務上の大きな会議が重なっている方が何名かいたり、体調を崩された方がおいでたため10名の参加となった。

心のケアということで、特に友人が関わるということが御意見として出ていたが、徳島県ではいじめを自分たちで防いでいくということから、鳴門教育大学と連携した予防教育として、子どもたちがいじめについて考える機会を持つ学校が増えてきている。また道徳の教科化でも、考える、議論する道徳ということで、いじめ問題について考える機会が増えてきている。加えて本年度から、いじめ防止子ども委員会を各小中学校及び特別支援学校で設置を少しずつ進めている。先日も「全国いじめ問題子供サミット」に参加し、自分たちの学校の取組を発表した学校が3校ある。そうした考える機会が増えており、いじめられている子の気持ちを理解する、心を

ケアするという声かけなど、考える機会が学校の中で設けられるようになってきている。

河口委員：この資料の中で、小学校の暴力行為やいじめ件数が増えてきている。その要因については、見守り体制強化とかいろいろ、こういうことだから増えていると書かれている。小学校の時に解消されたとか、88.4%が解消されているが、そういったことがまた中学校のほうに行くので、早期発見が必要である。

いじめや暴力行為を繰り返す子どもは自尊心や表現力の乏しい子どもが多いと思う。そのような子どもをしっかりと個々の教員や学校の体制で関わるのが小学校の教育の中で必要かと思う。それが中学校の教育になってくると更に大きくなって、そういった子どもたちをしっかりと見守り、育てるということが必要でないかと思う。このチラシを見ると、「家族の方から素敵なメッセージを発信してみませんか」ということがあり、このような言葉かけがすごく大事だと思う。学校では個々の子どもにしっかりと声かけをすとか、家庭の中でも言葉かけをすることによって子どもの安らぎなどにつながるのではないかと思う。

辻委員：我々が考えておかなければならないことは、理想の仲良し学級というものを前提にするとおかしくなるということ。大人の社会だと気に入らない者はずっと気に入らない。それでも暮らしていく術を持つことが大事で、そのようなコミュニケーションを取る以上に大事なのも、どこか片方で持っておかないといけない。ひたすら仲良くというのは難しい。それを我々は考えておかなければならないと思う。

いじめ問題等対策室長：担任をしている教員は、できるだけ学級の中で何とかクラスを一つにまとめたいという思いから、仲良しというより仲間集団ということで、本当の仲間になっていこうということをめざして取り組んでいる。ただ、どうしてもクラスの中でも距離を置かざるを得ない状況が生じることもある。

辻委員：仲間ということであると、目標があると仲間になれる。そういう働きかけもとても良いと思う。

教育長：苦手な者とどう付き合うかということは、とても大事である。逃げる時には逃げる道も知っておかなければいけない。逃げ道を持つということはとても大事なことである。一番いい形を押しつけないで、楽な形を作っていくことは悪いことではないと思う。コミュニケーションを取るということは、そういうことだと思う。良好なコミュニケーションとは、すごくいいコミュニケーションだけでなく、ほどほどのコミュニケーションも大事である。そういっ

たことも含めてコミュニケーションの取り方も入れていっていただきたい。

菊池委員：いじめや不登校は本県独特のものではなく、47都道府県でそれぞれ取組をされていると思う。先ほども「全国いじめ問題子供サミット」の話もあったが、他の教育委員会との横のつながり、情報共有はあるのか。

いじめ問題等対策室長：他県の取組については、特に中四国を中心に連携している。中四国の会議等で連携を図りながら、よい取組をされている県については参考にさせていただいている。

[非公開]

《議案第64号 教職員の懲戒処分の指針の一部改正について》

《協議事項1 平成30年度2月補正予算案について》

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午後4時5分